

明日の淡海

VOL.
32
2020.12

- 自然と人との共生をめざして -

公益財団法人 淡海環境保全財団

表紙写真：琵琶湖博物館の水族展示室入り口

3期6年にわたる改装がついに完成！

琵琶湖博物館グランドオープン！

「自然と人との共生をめざして」、琵琶湖や滋賀の環境の保全に取り組む当財団にとって、「湖と人間」というテーマのもと、地域の人とのつながりを大切にしながらその研究成果を展示されている琵琶湖博物館は、特別な存在です。

このたび、3期6年をかけて進めてきた展示空間の全面リニューアルが完成し、魅力を増してついにグランドオープンとなった琵琶湖博物館を、ある秋の休日に訪れました。

第1章 湖の400万年と私たち～琵琶湖の自然と生き立ち～

期待いっぱいではエスカレーターで2階に上り、まずA展示室へ。ここには400万年前に誕生した琵琶湖の生き立ちに迫る展示がされています。

琵琶湖のど真ん中を進むような360°のパノラマボードの間を進み入ると、目に飛び込んで来るのが、湖周辺にいたミエゾウに近い種とされる「ツグンスキーゾウ」の、世界初・半骨半身の巨大展示です。どの角度から見ても目が合うような気がするほどリアル！こんなに展示物に近づいていいのかと思いつつ、裏も表も、お腹の下からも見てみましたが、見れば見るほどリアルです。

また、古琵琶湖の湖底の地層が、絵画のように額装されたコーナーもあり、興味津々。歩みを進めるにつれ太古の昔にタイムスリップしたような臨場感あふれる展示に圧倒されます。



世界初・半骨半身の展示は迫力満点！

第2章 湖の2万年と私たち～自然と暮らしの歴史～

続いて、向かいのB展示室へ。稲光に照らされた龍(実はペットボトルが原料だそう!)に迎えられます。なぜ龍?と思いましたが、滋賀県内には龍まつわる伝説や行事が数多くあり、水をつかさどる水神の化身として水辺や山など県内各地で龍がまつられ、人々の生活に近く、恐れ敬う存在であるという解説があり、納得。

龍に導かれて歩みを進めると、「森」「水辺」「湖」「里」を舞台に、多様な自然のなかで生きた過去の人びとの足跡をたどることができ、滋賀ならではの自然と人の深い関わりが見えてきます。

壁際には巨大な実物大の、いえ、実物の丸子船が存在感を放っています。近くとタブレットが並んでおり、手に取ってみると、帆を立てて往時の湖上を走る船の、迫力満点の映像がタブレット画面に映し出されました。これは必見です。



入り口の龍



丸子船の船先からの風景がタブレットに!

Index

- 1-2 表紙特集 琵琶湖博物館グランドオープン！
- 3 その人に聞く 琵琶湖博物館 名誉館長 篠原 徹さん
- 4 日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～ 新潟県福島潟
- 5 今日の淡海～琵琶湖からの便りをお届けします
- 6 滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 西之園 保夫さん
滋賀県「省エネ家電買替キャンペーン！」実施中
- 7-8 おしらせ イベント情報
- 8 「しがネットゼロまちづくり」宣言 竜王町エコライフ推進協議会

第3章 湖のいまと私たち ～暮らしとつながる自然～

琵琶湖を左手に臨みながら、開放的な渡り廊下を進むと、C展示室の入り口に。琵琶湖からヨシ原、そして田んぼ、森林へと暮らしと生き物のかかわりが興味深く展示されています。

当財団が展示に協力したヨシ原がリアルに再現されており、ヨシ原をかき分けて進むと、まるで琵琶湖畔にいるような錯覚に陥ります。そしてヨシ原に暮らすカヤネズミたちは、いつ見ても驚きの小ささ&かわいらしさで、今日も行列ができていました。絶対外せないポイントです。



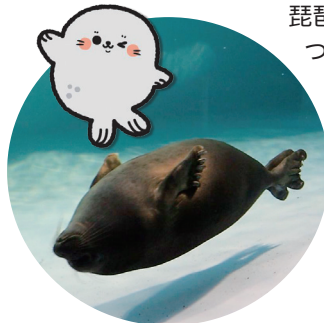
また、ヨシの生態や機能の解説とあわせ、当財団の活動紹介やヨシで作った製品の数々も展示されています。

そしてヨシ原を抜けたところにある窓から見えるのは、水槽で悠々と泳ぐ魚に見入る人々と、「樹幹トレイル」、その奥に広がる本物の琵琶湖。一幅の絵画のようで、一番のお気に入りスポットです。

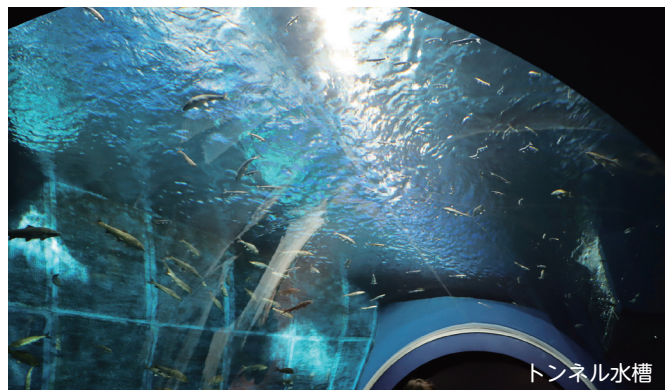


第4章 湖のいまと私たち～水の生き物と暮らし～

階段を降りると水族展示室。国内最大級の淡水生物の展示が見られます。ここにも当財団で大切に育てたヨシガ、魚や鳥のバックで臨場感を演出し、展示をさらに引き立てています(自画自賛です)。



琵琶湖は世界でも貴重な古代湖のひとつ。「古代湖の世界」では、人気者のバイカルアザラシのバイくんが悠々と泳いでいました。ここはいつも子どもたちでにぎわっています。当財団の地球温暖化防止活動推進センターのキャラクターの「アチャちゃん」は、このバイくんがモデルだったのです。



最終章 新コンセプトは「びわこのちから」

館内を一巡し終わり、一人でふり返りの時間。新展示に圧倒され、感性が刺激され、感動でいっぱいになりました。

今回のリニューアルでは館内のあちこちにさまざまな工夫がちりばめられています。新たに、氷期の冬の気温や、しじみ汁の匂いなど、「知覚体感」ができる展示や、「滋賀の自然とともに暮らす、歴史の中の人物」になりきれぬ撮影スポットなどが、数多く設けられており、エンタテインメント性も加わっていて、今度は娘や母と一緒に来ようと思えました。



400万年前の遠い過去から育まれてきた琵琶湖と生き物の関係、やがて人類が誕生し、湖とともに暮らしていく姿、琵琶湖と生き物、そして人間が織りなしてきた長い歴史、深いつながりが新展示に凝縮されています。

校外学習で行ったり、家族と休日を過ごしたり、客人の案内など、いろいろなシーンで折に触れて行く機会があり、実際に幅広い世代が訪れる、滋賀のエンタメスポットでありながら、何より、そもそも研究者たちの奥深い研究成果発表の場であるのがすごい!と思いました。

琵琶湖と、生き物と、人とのつながりこそが、「びわこのちから」。生まれ変わった琵琶湖博物館で遠い昔に思いを馳せながら、「びわこのちから」を実感し、湖と人間の未来について、考えてみてはいかがでしょうか。

おすすめスポットの数々！
ぜひ行って確かめくださいね。



琵琶湖博物館の6年間かけた展示・交流空間の全面的リニューアルが終わり、新しい琵琶湖博物館が始まりました。地域の方々にはこれまで以上に日常的に利用できる博物館を、そして遠くから来館された方々には、琵琶湖やその周辺の魅力をお伝えできるよう、活動を続けていきます。地域こそが博物館です。足元の一個の石ころにも、ふしぎや驚きがいっぱいです。琵琶湖博物館という入口から入って、琵琶湖地域を楽しんでください。



琵琶湖博物館
高橋啓一館長

自然と人との共生をめざして

その人に 聞く

琵琶湖博物館

名誉館長 篠原 徹さん

去る10月10日にグランドオープンしたばかりの琵琶湖博物館。2代目館長で自他ともに認める博物館のプロとして、リニューアルの陣頭指揮を執られた篠原さん。学芸員自らが面白いと思う研究成果の展示を呼びかけるとともに、ロシアやマケドニアなど海外の博物館との交流や連携強化に奔走されました。また、俳人として俳聖芭蕉同様、「終の棲家」を近江に求められ、時空を超えて古の俳人の暮らしを感じ取られるなど、民俗学の見地と探求心から、人と自然のつきあいなどを“面白がり”ながら、発見、研究の日々を過ごしてこられました。

グランドオープンした琵琶湖博物館を見て来られた日の午後、お話を伺いました。

— 琵琶湖博物館のリニューアルはいかがでしたか。

篠原さん これは私の持論なのですが、いい小説があって、それを映画化した時、映画の方が優れたものになったり、逆の場合もありますね。良い研究をしたからといって良い展示ができるとは限らないのです



琵琶湖博物館 篠原名誉館長

が、今回のリニューアルは両方素晴らしかった。感動しました。私はだいたい、「行け行け」と発破をかけていただけでしたけど(笑)。今後益々ステイタスもあがるでしょう。

— 国立歴史民俗博物館の副館長でいらしたんですね。滋賀への思いをお聞かせください。

篠原さん 琵琶湖博物館への就任を決意したと同時に、永住を決めていました。若い頃は山や海、溪流釣りなども好きで、今思えば荒々しい自然を好んでいました。琵琶湖の周辺で一番感じたことは、人と調和のとれたやわらかい自然だなあと。山も高からず低からず、雪も降り、水辺があり触れられる、人に近い自然を多く感じる場所です。それでいて人がたくさん暮らす場である。おいしい料理とお酒も大きな魅力です。

— 確かご自身でふなずしをつけておられましたよね。

篠原さん 多い時は60尾ほどつけていました。琵琶湖博物館に来て、私は人文系で自然科学的な研究をしませんでしたが、ふなずしの研究だけはしたんですよ。



ふなずしのたたき (居酒屋・お食事処「からっ風」)

弥生時代にメコン川流域から中国を経て、魚の保存方法としてなれずしが日本に入ってきました。ふなずしはニゴロブナ限定、100日塩につけてから100日米につけ直す。江戸から明治に洗練され発展して、現在の形に仕上げた。世界に誇る文化財、「東洋のカマンベール」、発酵食品の粋ですよ。

— 俳句へのご造詣も深くいらっしゃいますが、芭蕉のお墓も大津ですよ。

篠原さん 着任後の借り住まいの近くに、湖魚料理や滋賀の美酒をいただけるお店と、松尾芭蕉が眠る義仲寺、俳人の聖地があったんです。芭蕉は大阪で亡くなりましたが、故郷の伊賀上野でなく、近江に葬るように言い置いていた。それだけ芭蕉は近江を愛していました。また芭蕉は生涯で900の句を詠みましたが、うち102句が近江で詠んだものです。その中に食べ物が15種も出てきて、滋賀が馴染みの場所であったことがわかります。「^{あられ}藪せば網代の^{あしる}氷魚^{ひょうお}(※)を煮て出さん」という句がありますが、網代や氷魚を知っているだなんて、漁師の生活を良く知っていたに違いないと思うのです。(※)2、3センチ程度のアユの稚魚。



芭蕉が眠る義仲寺

— 趣味で滋賀の山々にも登られていると伺いましたが。

篠原さん ずいぶん歩きました。滋賀の山は非常に良いのです。山も歴史の中に含まれているんですよ。時代をさかのぼればさかのぼるほど、歴史的な場所がいくつもあつて、500m以下の山なら人間が関与しているでしょう。山城もあつたりするし、面白いよね。



篠原さんが「秀逸」と言われる賤ヶ岳山頂の武将像

— 財団の「自然と人との共生をめざす」という理念は、琵琶湖博物館の「湖と人間」というテーマとも共通していると思いますが、今後、財団に期待することを教えてください。

篠原さん 琵琶湖博物館は何千年、何万年という単位の中の琵琶湖との関係性の研究を主としていますが、もっと短いスパンの中での関係性が直近の問題として常に問われているので、それは財団の役割として、大事なことだと思います。

琵琶湖の保全と再生は法律でも謳われていますが、人がたくさん住み、水も使いあっている中での人と湖と、流れ込む川や山、全域でも含めた自然保護・保全の問題が、どういふことなのかを試されます。世界中のモデルになれる場所でしょう。

日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

第6回

ふくしまがた 福島潟

(新潟県新潟市北区、新発田市)



福島潟

福島潟は、新潟市北区と新発田市にまたがる約262ヘクタールの新潟市内最大の潟です。「潟」は、もともと海の湾であったものが、入口に砂洲、砂丘などが発達し、海から離れ、淡水化して湖になったものです。新潟市の平野には、多くの潟があり、福島潟は、新潟を代表する「潟」です。

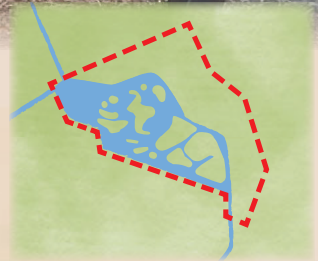
自然も大変豊かで、天然記念物のオオヒシクイなど200種以上の野鳥や、自生の北限であるオニバスなど450種以上の植物が確認されています。また、昔から人々に様々な恵みを与え、人々と自然が共生してきた歴史もあります。

訪れてみると、広い潟の中に、ヨシ原が島のように点在



福島潟に点在するヨシ原

する風景が特徴的で、周辺の水田と合せ、まさに「豊芦原瑞穂の国」という言葉が浮かんできました。かつては、ヨシ原は潟の周辺部に多く、真ん



中が開けていて、大きな海のように見える湖だったそうです。ヨシの丈を調べてみると、2mぐらいのものから3mを超えるものまであることから、ヨシにとっていろいろな環境が存在し、様々な大きさのヨシが生育していることがわかります。昔の文献では、用途によって、フトヨシとホソヨシと呼ばれるものがあったということで、ヨシを様々な利用するかつての地域の文化の存在を感じさせられました。

しかし、ヨシは生活習慣の変化により、今では使われることが少なくなりました。新しい試みとして、ヨシを刈りとること



かつてのヨシ屋根を再現した「潟来亭」

で福島潟の保全につなげ、特産品として世に送り出し、かつて福島潟を広く知ってもらおうと、「ヨシあし和紙」づくりが始まりました。将来は子どもたちの環境教育に使ったり、民芸品等の開発を行って、福島潟のヨシ文化を広く伝えていこうとされています。

協力：新潟市、福島潟みらい連合

参考文献：『蒲原の民俗』金塚友之丞著 野島出版

新潟市潟のデジタル博物館

<http://www.niigata-satokata.com/learn/fukushimagata/>

水の公園福島潟

<http://www.pavc.ne.jp/~hishikui/>

ヨシシンポジウムを開催します

ヨシの未来を考える

～女性の視点からみた「魅力」と「可能性」～

令和3年2月20日(土)13:00～16:00

草津市民交流プラザ5階 大会議室

基調講演 作家 森まゆみさん

座談会 研究者、企業、地域で活動する女性が集まり、ヨシ原の保全と未来について語り合います。

基調講演 森まゆみさん

自然と人が協力して作り上げた景観

～ヨシ原と茅葺屋根をめぐる～

地域雑誌『谷中・根津・千駄木』を創刊。

聞き書き三昧の30年、「記憶」を「記録」に替えるとともに、東日本大震災以降は東北に通い、中でも北上川のヨシ原の保全に関わっている。

『暗い時代の人々』(亜紀書房)、『お隣のイスラム』(紀伊国屋書店)、『子規の音』(新潮社)、『五足の靴』(平凡社)など著書多数。



森まゆみさん

「今日の淡海～琵琶湖からの便りをお届けします」



11月14日

紅葉真っ盛りの奥伊吹で「ススキ刈り体験」を開催しました

抜けるような青空の下、奥伊吹のスキー場「グランスノー奥伊吹」で、11年目となる「ススキ刈り体験」が実施されました。



今年は新型コロナウイルスの影響で規模が縮小となりましたが、滋賀銀行から32名の皆様にご参加くださいました。

グランスノー奥伊吹を運営されている、奥伊吹観光株式会社の代表取締役・草野丈太様のご挨拶では、かつてはこのススキを使い、甲津原集落の屋根が葺かれていたなど、地元ならではの貴重なお話を聞かせていただきました。



急な斜面で足を滑らせないように気を付けながら、ススキ原へ。鎌を使って丁寧に刈り取り、ひもでくくる作業を繰り返します。最初は戸惑っていた初参加の方もあっという間にコツを覚え、美しい束が出来ていきます。

続いて、ススキの束を集めて「丸立て」に仕上げしていきます。大きな束を抱えて急坂を下りるのはなかなかの重労働ですが、「日頃の運動不足解消!」「ストレス発散になる!」という頼もしい声と共に着々と作業が進められ、大きな丸立てができました。

ススキ原はもちろん、ご参加いただいた皆様のお顔も、すっきりと晴れ渡っていたのが印象的でした。本当にお疲れ様でした&ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いたします。



11月27日

【ヨシ学習】野洲市・中主小学校の4年生とヨシ植えをしました

11月の末とは思えない汗ばむような日差しの下、中主小学校の4年生の皆さんと「ヨシ植え」をしました。

当財団では毎年、県内の小学生を対象に、“ヨシ学習”を実施しています。中でも、中主小学校では10年以上前から「琵琶湖を守るプロジェクト」に取り組み、学校でヨシの苗を育て、琵琶湖岸に植える活動を続けています。

今年は7月2日にみんなでポット苗を作り、地元の「びわ湖の水と地域の環境を守る会」や野洲市の職員の皆さんと一緒に大切に育てました。

それから5か月近く経ち、立派に育った苗を、いよいよ琵琶湖岸に植える日がやってきました!



校長先生のお話の後、子どもたちの代表が「琵琶湖を守ろうプロジェクト」について発表しました。支えてくれる地域の人たちへの感謝。琵琶湖の水をきれいにしたい、沢山のいきものを育むヨシを守りたい、という強い思い。しっかりと自分たちの言葉で語る子どもたちの表情は、真剣そのものです。

あらかじめ地元の皆さんが掘って下さった穴の中に、ビニールポットを外した苗をそっと下ろし、丁寧に砂をかけます。

「大事なヨシ、元気に大きくなってね」と声をかける子どもたちの姿も見られました。



淡海環境保全財団ホームページ

「今日の淡海～琵琶湖からの便りをお届けします」で最新情報を発信しています。

滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク

今回は、森や里を守る活動とあわせ、器用な手先を活かして、工作の楽しさとともに地球温暖化防止を伝える講座などで活躍されているこの方です！

定年退職後、レイカディア大学びわこ環境学科で2年間学びました。授業で地球温暖化の深刻さを知り、自分で何かをしたいと、2018年に第10期地球温暖化防止活動推進員になりました。学校、地域学習会、商業施設などで出前講座や啓発活動を行っています。地球温暖化防止活動には様々なアプローチ教材があつて、その中に「火おこし体験」があります。昔の舞ギリ式火おこし器を使って火を作るのですが、子どもにも大人にも大人気です。火おこしと地球温暖化防止を結びつけるのは、火が人間社会の基本的なエネルギーであり、現代は火が電気に代わっていることを理解してもらうことです。そのことを子どもから大人にまで、分かり易く説明出来るように、シナリオを作り、話し方の練習をしてから本番に臨んでいます。



「火おこし体験講座」での西之園さん



西之園 保夫さん
湖南市在住

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。

イベント報告

“しがCO₂ネットゼロ”ムーブメント 省エネキャンペーンを開催しました

イオンモール草津の1階セントラルコートで、地球温暖化について楽しく学び、わたしたちの暮らし方について考えることができるイベントを開催しました。

VRゴーグルシアターでは、「もしも自然生態系の異変がさらに悪化したら」「もしも熱波が日本に押し寄せたら」など、近未来の地球に起こり得る温暖化の危機を360°のバーチャル空間で体験していただきました。また、エコドライブシミュレーターでは、標準的なエコドライブに対し、自分の運転が「どの場面でガソリンの無駄遣いになっているか」を確認していただきました。三密を避けた空間でありながら、温暖化を考える人々にぎわう一日となりました。



滋賀県 「省エネ家電買い替えキャンペーン！」実施中

滋賀県では、令和2年1月に“しがCO₂ネットゼロ”ムーブメントを宣言し、2050年までに二酸化炭素の排出量を“実質ゼロ”にするために、県民・事業者等多様な主体と連携した取組を行っています。

その取組の一環として、「省エネ家電買替キャンペーン」を実施中です。最新の省エネ家電は非常に省エネ性能が高く、大幅なエネルギー消費の削減につながります。

「地球」にも「家計」にもエコな選択をこの機会に検討ください。

対象家電

統一省エネルギーラベルが **4つ星以上**の



エアコン



冷蔵庫



液晶テレビ

統一省エネルギーラベル

対象となる方：滋賀県にお住まいの方で、統一省エネルギーラベル4つ星以上の「エアコン」、「液晶テレビ」、「冷蔵庫」をキャンペーン期間中に購入された方

キャンペーン期間

令和2年10月15日(木)～令和3年1月15日(金)

申込締切

令和3年1月22日(金)消印有効

応募方法

- ①応募用紙に記載の必要事項を記入
- ②レシートや製品保証書等、購入日と型番・製品名がわかるもののコピーを、(1)郵送、(2)メール、(3)FAXのいずれかで温暖化防止センター宛にお送りください
「滋賀県地球温暖化防止活動推進センター（淡海環境保全財団）」
(1)〒525-0066
滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108 淡海環境プラザ2階
(2)メール：kaden2020@ohmi.or.jp
(3)FAX：077-569-5304

20歳以上



エディオンギフトカード
2,000円分
提供: EDON様

抽選で
122名様に

景品プレゼント

20歳以上



ジョーシングiftカード
2,000円分
提供: Joshin様



RLULO
ロボット掃除機
「RLULO」
MC-RS520
提供: パナソニック様

30歳以上



充電式クリーナー
CL110DWR
提供: 平和堂様

商品券1,000円分



提供: 滋賀県電器商業組合様

本取組にご賛同頂いた県内企業・販売店様のご協力のもと、実施しています。

わたしたちの仕事をご覧いただきました こやり 小籠参議院議員来訪

過日、コロナで東京からのご移動が難しく、久しぶりの滋賀だとおっしゃる小籠隆史参議院議員が、お忙しい公務の合間に当財団を訪問されました。

淡海環境プラザで、水環境や下水道関連の最新技術、県内のマンホールの展示をご案内しました。その後、びわ湖から引き揚げたばかりの水草が高く積みあがった北山田漁港をご覧いただき、水草の繁茂によるさまざまな課題やその有効活用について、興味深く質疑いただきました。

そして、財団のヨシのほ場に移動。ちょうどヨシ苗を植えているところをご覧いただきました。さらに、冬に刈ったヨシの腐葉土づくりの現場や、出荷待ち商品のヨシ腐葉土などをご案内しました。

「ヨシの苗植えから育成、琵琶湖での植え付けなど、数年にわたる一連の作業を長く続けて頂いていることに敬服です！」とのお言葉をいただきました。



マンホール展示室



引き上げられた水草



ヨシ苗をポットに詰める作業



ヨシ腐葉土づくり

湖西浄化センターバラ園が 秋季一般公開されました！

湖西浄化センター（大津市苗鹿）のバラ園は、浄水場で下水処理の過程で出る汚泥で作った「たい肥」の効果を確認するために作られました。

現在は、センターで浄化した水で育てたバラが見事に咲き、毎年春と秋に無料で一般公開されています。

新型コロナウイルスの影響で今春の公開は中止となり、一時は秋の公開も危ぶまれましたが、丁寧に手入れされた約700株のバラが、訪れる人々を楽しませました。



10月14日～25日まで開園されたバラ園

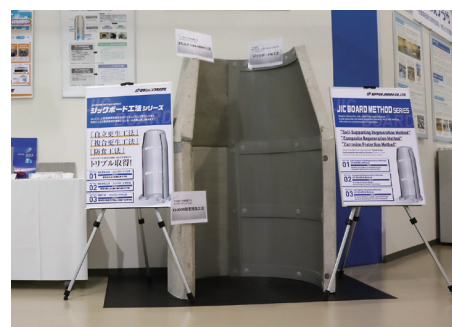
水環境の新技术展示をご覧ください 淡海環境プラザ

淡海環境プラザでは、水環境に関わる30社の技術やサービスの情報、製品等の、新技术開発成果を展示し、広く発信しています。

展示内容は、下水や汚泥の処理、水質等の計測や水処理薬剤、水環境関連のコンサルティングや施設の維持管理など多岐に渡っています。さらにこのたび新たに日本ジッコウ様様の下水道管路設備の補修技術の紹介も加わりました。さまざまな実物製品も展示されており、各種見学会や、研究・研修にもご利用いただけます。ぜひご来館ください。



リニューアルした展示室



日本ジッコウ様様 ジックボード工法の展示

「しがCO₂ネットゼロまちづくり」 竜王町エコライフ推進協議会が 宣言されました

竜王町エコライフ推進協議会では、竜王町のかげがえのない環境を後世の子どもたちに引き継いでいくため、協議会会員を中心に町民の皆さんと連携して取り組む「しがCO₂ネットゼロまちづくり」宣言をされました。

地球温暖化防止に向けて、まずは、グリーンカーテン、エコドライブやごみダイエットの推進など身近なところから取り組み、竜王町の皆さんと一緒にエコの輪が広がるよう進めていかれるとのことです。

当センター（財団）では、各種出前講座や皆様の取り組みなどを全面的にサポートして参ります。

「しがCO₂ネットゼロまちづくり」宣言

竜王町は、滋賀県の東南部湖東平野に位置し、東に雪野山、西に鏡山という2つの山なみを背景とした沃野にはぐくまれ史実に残る古い歴史と恵まれた文化遺産を受けつぎながら古くから農業を中心に築いてきた自然環境の素晴らしい町です。

また、本町は、近江半発洋の地であり、総面積の30%を占める水田から良質な近江米が収穫できるまちとしても知られているとともに、名神高速道路竜王インターチェンジを核とした交通網により工業の活性化に取り組んでいます。

一方、近年の地球温暖化の影響により、夏の猛暑や局地的豪雨などによる災害が各地で起こっており、本町においては町内を縦断している河川の大半は天井川であることから、大雨発生時における河川の決壊等による水害が懸念され、住民の治水に対する関心が高まっているところであります。

このことから竜王町エコライフ推進協議会では、「安全・安心」の地域づくりを目指し、二酸化炭素排出削減に向けて自治会会員でもある当協議会会員を中心にCO₂の排出削減に結び付く実践行動を起こすことを決意しました。

竜王町のかげがえのない環境を後世の子どもたちに引き継ぎ残せるよう地球温暖化問題を自分ごととしてとらえ、省エネ・脱CO₂行動・SDG推進が暮らしの中に定着し、これからは住民が安心して暮らせるまちづくりをめざして「しがCO₂ネットゼロまちづくり」を宣言します。

令和2年7月10日



「しがCO₂ネットゼロまちづくり」宣言文をPR
竜王町エコライフ推進協議会
山田会長

イベント情報

2020年12月～2021年2月

詳細はお問い合わせください。

イベント名	開催日	時間	場所	内容
「クールチョイス」ポスター入賞作品表彰式&天達さんトークショー ※要事前申込	12月5日(土)	13:30～16:40	コラボしが21 大会議室	夏休みに募集したポスターの入賞作品を表彰、展示し、あわせてテレビでおなじみの気象予報士・天達 武史さんによるトークショーを開催します。
“しがCO ₂ ネットゼロ”シンポジウム エコ・エコノミー推進セミナー 「CO ₂ ネットゼロで変わる 2050年『滋賀』の暮らしと社会」 ※会場参加は要事前申込 Web視聴は申込不要	12月12日(土)	13:30～16:30	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 小ホール	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授の高村ゆかり先生をコーディネーターにお招きし、CO ₂ ネットゼロの実現に向けて、県民、事業者および行政が一体となって取り組むため機運の醸成を図ります。
「クールチョイス」ポスター入賞作品展示	12/15～12/21	9:00～16:30	淡海環境プラザ	草津市矢橋町の、淡海環境プラザで、県内小中高生の入賞作品12点を展示します。
	12/23～1/4	10:00～18:00	エイスクエア東館2階 エイプレイス	JR草津駅前のショッピングモールで、県内小中高生の入賞作品12点を展示します。
ヨシシンポジウム ヨシの未来を考える ～女性の視点から見た「魅力」と「可能性」～ ※要事前申込	2月20日(土)	13:00～16:00	草津市市民交流プラザ 5F大会議室	作家の、森まゆみさんの基調講演に引き続き、研究者、企業、地域で活動する女性が集まり、ヨシ原の保全と未来について語り合います(P.4参照)。

公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団 VOL.32 2020年12月発行 (年4回発行)
〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町2108番地
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp
【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp
【淡海環境プラザ】
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



- 用紙:適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷

編集後記

コロナ禍での事業推進のため、日々模索と決断を繰り返した1年でした。滋賀の環境、地球の環境の改善にもつながる、BBB(Build Back Better=前よりも良い状態にする)ことを考えていきます。